

# 令和7年度PTA研修会

## グループホームについて

グループホーム こっから

澁谷 展弘



# 一般社団法人 宏友会

- ・ 障害者福祉事業  
共同生活援助 （短期入所、日中一時支援 併設）  
相談支援
- ・ 高齢者福祉事業  
地域密着型通所介護 2事業所  
居宅介護支援
- ・ グループ会社での事業（Hi-Road Medical）  
医療機器、福祉用具販売・貸与、住宅改修

# グループホームとは

## 共同生活援助（グループホーム）

障害者につき、主として夜間において、共同生活を営むべき住居において行われる相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の必要な日常生活上の援助を行います。

## 【対象者】

障害者（身体障害者にあつては、65歳未満の者又は65歳に達する日の前日までに障害福祉サービス若しくはこれに準ずるものを利用したことがある者に限る。）

## 障害福祉サービス等の体系（介護給付・訓練等給付）

サービス内容		
訪問系	介護給付	<b>居宅介護</b> 者 児 自宅で、入浴、排せつ、食事の介護等を行う
		<b>重度訪問介護</b> 者 重度の肢体不自由者又は重度の知的障害若しくは精神障害により行動上著しい困難を有する者であつて常に介護を必要とする人に、自宅で、入浴、排せつ、食事の介護、外出時における移動支援、入院時の支援等を総合的に行う（日常生活に生じる様々な介護の事態に対応するための見守り等の支援を含む。）
		<b>同行援護</b> 者 児 視覚障害により、移動に著しい困難を有する人が外出する時、必要な情報提供や介護を行う
		<b>行動援護</b> 者 児 自己判断能力が制限されている人が行動するときに、危険を回避するために必要な支援、外出支援を行う
		<b>重度障害者等包括支援</b> 者 児 介護の必要性がとて高い人に、居宅介護等複数のサービスを包括的に行う
日中活動系	介護給付	<b>短期入所</b> 者 児 自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含めた施設で、入浴、排せつ、食事の介護等を行う
		<b>療養介護</b> 者 医療と常時介護を必要とする人に、医療機関で機能訓練、療養上の管理、看護、介護及び日常生活の世話をを行う
		<b>生活介護</b> 者 常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排せつ、食事の介護等を行うとともに、創作的活動又は生産活動の機会を提供する
施設系		<b>施設入所支援</b> 者 施設に入所する人に、夜間や休日、入浴、排せつ、食事の介護等を行う
居住支援系		<b>自立生活援助</b> 者 一人暮らしに必要な理解力・生活力等を補うため、定期的な居宅訪問や随時の対応により日常生活における課題を把握し、必要な支援を行う
		<b>共同生活援助</b> 者 夜間や休日、共同生活を行う住居で、相談、入浴、排せつ、食事の介護、日常生活上の援助を行う
訓練等給付	訓練系・就労系	<b>自立訓練（機能訓練）</b> 者 自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、身体機能の維持、向上のために必要な訓練を行う
		<b>自立訓練（生活訓練）</b> 者 自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、生活能力の維持、向上のために必要な支援、訓練を行う
		<b>就労移行支援</b> 者 一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う
		<b>就労継続支援（A型）</b> 者 一般企業等での就労が困難な人に、雇用して就労の機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練を行う
		<b>就労継続支援（B型）</b> 者 一般企業等での就労が困難な人に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練を行う
		<b>就労定着支援</b> 者 一般就労に移行した人に、就労に伴う生活面の課題に対応するための支援を行う

# 種類（グループホームと言っても・・・）

- 認知症対応型共同生活介護（介護保険適用 65歳以上の認知症と診断された方が対象のため今回は除外します）
- 共同生活援助（日中サービス支援型）
- 共同生活援助（介護包括型）
- 共同生活援助（外部サービス利用型）

障害福祉サービス

## 共同生活援助（日中サービス支援型）

- 日中サービス支援型共同生活援助は、障害者の重度化・高齢化に対応するために創設された共同生活援助の新たな類型であり、短期入所を併設し地域で生活する障害者の緊急一時的な宿泊の場を提供することとしており、施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続等、地域生活支援の中核的な役割を担うことが期待されています。日中サービス支援型では、昼夜通して1人以上の職員を配置し、日常生活動作の介護や援助、通所先との連絡調整、レクリエーションや余暇活動などの支援を行います。また、在宅で生活する障がい者に何らかの緊急事態が発生した際、一時的に宿泊できるように短期入所も併設しています。



# 共同生活援助（介護包括型）

- 共同生活援助の介護包括型は、日常生活において介護や援助を必要とする障がい者を対象としたサービスです。このサービスでは、相談や家事などの日常生活上の援助と、入浴などの介護を一緒に行います。主に夜間や休日に支援を受けることができ、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病等の対象者が含まれます。

## 共同生活援助（外部サービス利用型）

- 「外部サービス利用型」は、**日常生活上のサポートは施設の従業者が行い、介護サービスは委託された外部の居宅介護事業所によって提供されるタイプ**です。主に夜間における日常生活上の援助や相談は、施設の世話人が行います。入浴や食事の援助などの介護サービスは委託先から派遣された介護スタッフが行います。外部サービス利用型は精神障害のある方で、障害支援区分では「区分なし」の方が多く利用しています。

# 大垣市内のグループホーム（R7.11月現在）

日中サービス支援型                      3件

介護包括型                                  1 3 件

（男子棟、女子棟と建物が分かれていても1件とカウントされる）

外部サービス利用型                      0 件

自立生活援助                                0 件

施設入所支援                                2 件

宿泊型自立訓練                              1 件



# Q & Aについてのおことわり

今回の研修にあたりさまざまなご質問をいただきました。しかし、大垣市内でもグループホームは増加傾向にあり施設によって対応が様々です。

その時の入居者の状況や法律の変更により対応が変化する可能性もございます。

今回のQ & Aでは「制度に関すること」と「こっからに対するご質問」に分け、「こっからでは」と「一般的な傾向として」と区別して回答をしたいと思いますのであらかじめご了承くださいと思います。

グループホームの入居をご検討の際は相談員や直接グループホームへお問い合わせいただきたくお願いいたします。

制度に関すること

Q:年齢などの入居条件は？

A:

入居時点で64歳以下、受給決定がおりていれば入居可能です。

但し、その方の身体状況等により相談が必要な場合がありますのでその都度相談が必要になります。

Q:入所しているのはどういう方か？

A:グループホームに入居が可能な方は身体、精神、知的、難病等障害認定がされており手帳を有する方が対象になります。

現在「こっから」では知的障害の方、精神障害の方が入所されており、短期入所では身体障害の方のお受入もしています。ただし「こっから」では看護師の常駐はしていないため医療処置が必要な方のお受入はしていません。

Q:利用者の部屋は個室か？それぞれのグループホームによって違うとは思いますが自分だけの空間はあるのか？

A:

グループホームは原則個室です。法律で収納スペースを除いて7.43㎡（4.5帖ほど）以上確保することとなっています。実際は7.43㎡よりも大きなお部屋のグループホームが多いと思います。

Q:新規入居は、今でだいたい何年待ちか？入居の枠がなかなか無いと聞くが

A:

障害者入所施設は数が少なく定員もいっぱいなため何年も待ちがあるかと思います。

グループホームでは満床のところもありますがすべてが満床というケースはないと思います。

しかし、利用者との相性もあるため入りたいグループホームに入れないケースはあります。

Q:入居するために必要な手順（手続き）  
は？

A:

障害福祉サービスの利用には市町村へ受給者証の申請を行い受給決定がおりてからの利用になります。

共同生活援助のサービス利用の申請を行い受給決定がおりれば利用することができます。



Q:何歳くらいで入居される方が多いのか？

A:

入居される時期については状況により異なりますが、緊急的な措置として入居になる方もみえます。これも年齢とは関係ないケースが多いかと思います。

Q:市役所等外部の方に時々、困ったことがないか、健康状態等様子を見に行ってもらえる制度はあるのか？

A:

相談支援員の方が定期的にモニタリングをされています。状態に変化があった場合などは相談支援員や他事業所と連絡を取り合い対応しています。また地域の方に定期的に施設見学の機会を設け地域社会の一員として生活していただけるようにしています。

相談支援員のモニタリングは義務なので定期的な訪問はあります。また令和7年4月から地域連携推進会議の設置が義務化され、年に一回以上運営状況の報告、必要な要望、助言を聴く機会を設けることになりました。参加者は利用者及び家族、地域住民の代表者、知見を有する方、市町村の担当者等です。

これからにいただいたご質問

Q:実際に月いくらくらいかかるのか？

A:「こっからでは」

家賃：月額 25,000～35,000 水光熱費：月額 15,000

日用品費：月額 3,000 食費：朝300、夜600 30日で27,000

合計70,000～ 国から月額10,000の家賃補助がある

昼食を希望される場合は1食400円 朝、夜は食べなければその分マイナスされる。

「一般的な傾向として」

生活保護の家賃扶助が32,000であるためその当たりの金額設定が多い。水光熱費、食費は差がある。湯煎式を採用しているところは安い傾向にある。

Q:入居者の土日の過ごし方は？

A:「こっからでは」

基本は個々に過ごしていただく。共用スペースでテレビを見たりお話をする方もみえます。季節ごとにイベントを行い入居者、利用者と一緒に楽しんでいる（お出かけレク、クリスマス会、節分、たこ焼きパーティー、流しそうめん、朴葉寿司作り等）

「一般的な傾向として」

年に何度かイベントを開催したりお出かけレクを定期的に行っているところが多い。

Q:おこずかい等個人的なお金でおやつを買ったりできるのか？

A:「こっからでは」

できます。金銭管理は事前の打ち合わせにより本人管理、施設管理か選択いただいております。1人でお買い物に行く方もみえますし、職員、家族同伴で行く方もみえます。

「一般的な傾向として」

おこずかい程度の金銭管理はしてくれるところが多い。本人の同意等事前打ち合わせをしっかりとっていないとトラブルになることもあるため確認が必要。

Q:定期受診の際に病院へ連れて行ってもらえるのか？（親は同伴か、親なき後は？）

A:「これからでは」

通院は基本ご家族の同伴無しでも対応しております。病状によっては家族に相談。入院になる場合はご家族に対応を依頼。着替え等の準備は可能。

「一般的な傾向として」

対応は施設ごとに分かれている。「同行はしていない」や、「月に一回は無料で二回目以降有料」等事前の確認が必要



Q:風邪、インフル、コロナ等の際に病院に連れて行ってもらえるのか？（親は同伴か？感染症の場合は一時的に家に帰ってくるのか？

A:「これからでは」

発熱がある場合はご家族に対応を相談。グループホームで待機、帰宅を相談の上決める。陽性の場合は自宅待機をお願いしているが必ずしも帰らなければいけないことはない。

「一般的な傾向として」

緊急時、家に帰れない方は入居できないGHもある。隔離が可能なGHで対応してくれる場合もある。

Q:入院になった際にはどのような対応を  
してもらえるのか？

A:「これからでは」

入院時の準備（着替え等）は病院まで対応。病状の説明を聞いたり、治療に対する判断はできません。

また、3か月以上入院となる場合は一旦退去となります。

「一般的な傾向として」

ご家族や成年後見人に対応を依頼することが多い。

成年後見制度以外に民間の身元保証サービスもある。

金銭管理無し、金銭管理有りで価格設定しているケースが多い

Q:親なき後、完全にお任せできるのか？

A:「こっからでは」

日常生活においては相談支援員、他事業所等と連携を図っていますが金銭的なこと、命に関わること等対応できないこともあります。成年後見制度や身元保証サービスの利用をお願いしています。現状では対象者はみえません。

「一般的な傾向として」

親族、成年後見制度、身元保証サービスいずれかが必要となることが多い。金銭的な部分、命に関わる部分はグループホームも相談員も関わることは困難であるため判断される方が必要になる。

Q:服や肌着等が古くなった場合、判断し、一緒に買いに行っても  
らえたり、代理で買ってもらえるか？その時のお金は個人のお金  
か、自由なお金の管理をしてもらえるのか

A:「こっからでは」

ご家族が判断される場合はこちらから現状をお伝えしご判断を仰  
ぎます。こちらでの判断でご依頼いただいている場合はこちらで  
購入しおこずかい帳へ記載しご報告しています。

「一般的な傾向として」

対応としては同じような形が多いと思います。ご家族、利用者の  
状況、考え方により対応が異なるかと思いますが事前の打ち合  
わせが必要になります。

Q:入居の際に不安定になったりされないか？

A:「これからでは」

入居後、不安定になることは十分に想定されますので安定した状況でご入居できるよう事前に短期入所のご利用や体験利用を活用し慣れていただく期間を設けています。

「一般的な傾向として」

共同生活援助の体験という形で一般的に年間50日（連続利用の場合は30日が限度）の受給決定を利用し体験を経て本入居になるケースは多いと思います。緊急時以外では少しずつ慣れて入居につなげていくことが多いと思います。

Q:お酒やたばこなど嗜好品を楽しむ方はいるか？その場合はどのようなルールがあるのか？

A:「これからでは」

お酒を飲んだりたばこを吸う方は現状ではみえません。タバコは敷地内禁煙としております。お酒は自室であれば可としていますが飲みすぎてしまう方等管理が必要であれば対応が変わる可能性はございます。

「一般的な傾向として」

敷地内禁煙、禁酒もあるしお酒は可としているところもある。タバコに関しては敷地内禁煙が多いが敷地外で吸っていると苦情につながる場合もあるため駐車場でなら可としているところもある。

Q:保証人は必要か？もし必要なら親が亡くなっていたり身内がいなくて保証人が立てられない場合入居は難しいのか？

A:「こっからでは」

ご相談させていただきますがご親族等ご協力をいただきたいと思います。

「一般的な傾向として」

兄弟、親戚など親族にご対応いただくことが難しい場合は成年後見制度や民間の身元保証サービスの契約を依頼されることが多いと思います。



Q:どんな人が入居できるのか（入居条件）優先的な条件はあるのか？

A:「こっからでは」

優先的な条件はございません。ただし看護師が常駐しておりませんので医療行為が必要な方は現状お受入はできません。（ご自分で処置できる方はお受入しています。）

「一般的な傾向として」

人員配置等要件により受け入れが困難な事例はあります。

医療行為や日中活動に行けない方等ご相談が必要かと思えます。

Q:グループホームで、お世話などして下さる職員の人数や年齢、資格など

A:「これからでは」

現在スタッフは男子棟、女子棟合わせて10人在籍しています。年齢は20歳から65歳までとなります。取得資格は介護福祉士、保育士がおりますが無資格のスタッフもいます。

「一般的な傾向として」

スタッフの人数、年齢、資格は要件がないためグループホームによってさまざまになります。ただしサービス管理責任者の配置は必須の為、基礎資格は社会福祉士、介護福祉士、保育士、看護師等専門家は必ず配置されています。

Q:老後は老年の施設へ移るのか？その基準や誰が判断、手続きをするのか

A:「これからでは」

現状で判断に迫られたことはございませんができる限りご本人、ご家族のご希望に沿って対応したいと考えております。グループホームに居住していても介護保険のデイサービス、訪問介護、訪問看護等の利用は可能なためご希望を伺いながら対応を協議したいと考えています。

「一般的な傾向として」

対応はさまざまです。65歳になったら退所しなければならない所もありますしご相談によって対応が変化する場合があります。

Q:グループホームで過ごす中でできるようにしておくの良いことはなにか？

A:できる範囲のことはなるべく自分で行っていただき、できない部分はスタッフと一緒にいできるようなしていくことが大切と考えています。

生活のリズムを整えたり、着替えや荷物の整理等できる範囲を広げておけると良いと考えています。

Q:事業所までの送迎はあるのか？

A:グループホームの入居者に関しては行っていません。送迎のある事業所を選択されたり、送迎場所まで自分で移動していただいております。

なお、短期入所の利用者につきましては学校や事業所までの送迎を行っています。

Q:利用者の親として、困る親はどんな人ですか？

A:事前に決めたルールを守っていただけない方（持ち物や時間）

連絡調整がつきにくい方

電話、メール等でなかなか連絡がつかないと緊急時や日程調整、書類関係などサービスのお受入に関わる手続きができないことがあります。

## Q: グループホーム運営上の課題や問題

A: 入居者同士のトラブルには悩むことがあります。

性格が合わないことやこれまで違う生活をしてきた人同士なので生活のリズムが狂ってしまうことがあります。

しかし、それも社会で生活をしていくためには必要なことと捉え距離をおいたり、自分のリズムを守りながらできることを増やしていけるように支援をしています。

Q:業務内容やそれに対しての「やりがい」「つらい」ことなど

A:基本的な業務は食事、入浴、排せつ、相談に関することです。利用者ごとに支援の量が違うため自立、見守り、一部介助、全介助をアセスメントしながらできることは自分で、必要な部分は支援を行っています。

できなかったことができるようになった時は素直に喜べますし、少しずつでも改善がみられるときはさらに支援の幅が広がっていきます。次は何に挑戦しようかと考えている時は個人的に楽しいです。

グループホームでの暮らしは一日のうち的一部分なので全ての生活を把握しているわけではありません。何かつらいことがあってもご自身で伝えることができずそれが不穏につながってしまうこともあります。どのような支援が適切なのかその場で結論が出ないこともあって悩むことが何日も続くことがあります。



Q: ショートステイの情報も教えてほしい

A: こっからはグループホームの空床利用型の短期入所として運営をしています。入居者で埋まってしまうと短期入所のお受入ができなくなってしまうため現在は入居者の受け入れを停止し短期入所の受け入れを優先しています。男子棟、女子棟それぞれ1日2名をお受入していますがご要望が多く特に土日は早めにご予約が必要な状態になっています。

現在小学3年生から59歳までの方がご利用されています。

日中サービス支援型のグループホームには短期入所のベッドが確保されていますので空き状況に応じてご利用が可能になります。

# Q: グループホームのメリットとデメリット

A: メリットは規則正しく生活ができることと考えます。休日以外は基本的に就労先や作業所等に毎日通っていただきますので早く起きて、ごはんを食べて、毎日入浴して、早く寝るという規則正しい生活ができます。

デメリットは人間関係の難しさや自由の制限ということが考えられますが社会生活において必要な部分を学ぶことができるという意味ではメリットとも捉え支援させていただきたいと考えています。

グループホームこっからは短期入所、日中一時支援のご利用者の受付を随時しております。

まずはご見学からぜひいらっしゃってください。

来年度 生活介護事業の開設に向けて計画を進行させています。

医療依存度の高い方、強度行動障害を有する方などの受け入れも可能な環境整備を目指して計画をしています。

様々な問題に我々でできることから一歩ずつ解決を目指し”真の共生型社会“を実現していきます。

本日はありがとうございました。